

経済学部 教授 土屋昌明 *Masaaki Tsuchiya*

本学生田校舎の近辺にはかつて、大日本帝国陸軍の登戸研究所があった。その研究所が何をやる所なのかを探索したドキュメンタリーがこれ。

陸軍は、極秘に兵器開発をする「陸軍登戸研究所」を運営、生物兵器、化学兵器、風船爆弾、怪力光線などなど、頭を使っていろいろな兵器をひねりだした。生物兵器とは、ペスト菌などを散布する方法で、日本軍は中国の浙江省寧波で実際に使った。化学兵器とは毒ガスで、日本軍は1930年の台湾の霧社事件（台湾原住民の抗日蜂起）でルイサイトという毒を使って実験している（台湾のウェイ・ダーション監督の映画『セデック・バレ』に描かれている）。

風船爆弾とか聞くと、ホントかよという気がするが、ホントなのである。研究所は真剣に、風船をジェット気流に乗せて、アメリカ本土攻撃を考えた。驚くのは、中国（中華民国）の経済を攪乱するために大量の偽札を作ったことだ。下手に高い技術力を持っていると、何でも平気で作っちゃうから恐ろしい。

日本が戦争に負けると、証拠隠滅の命令が下された。生き残った当時の関係者が、自分の過去を話すようになった。証言や資料をもとに研究所の秘密をこじあける。生き残った科学者たちを利用した戦後の政治権力やアメリカ軍、素知らぬ顔で戦後も高い地位に居続けた関係者などがある。彼らのことも、このドキュメンタリーから少しはわかる。

陸軍登戸研究所：完全版 / 楠山忠之プロデューサー・監督・編集
マクザム（発売・販売）、c2013

(C) 2013「陸軍登戸研究所」製作委員会/
アジアディスパッチ



本館 V/395/R42

神田分館 V/395/R42